

なぜ幼稚園で漢字を教えるのか

漢字は、かなよりも親しみやすく、覚えやすい。

漢字は、どんな幼児でも三歳から覚えらる。

しかし、それだけでは、“幼稚園でどうしても漢字を教えなければいけない”理由にはなりません。

昔、ある人が、「子猫持つ身の悩みは、それがやっぱり猫になることだ。」と言って嘆いたということです。

チンパンジーをいくら教育しても、人語を操るようにはなりません。つ



人間の子は育て方によってどうにでもなる

まり、人間以外の動物は、いくら教育しても、反対にほっておいても、“やっぱり”なるようにしかならない、ということです。

ところが、人間は、狼に育てられると“狼”になるのです。顔かたちは人間でも、その心と行動とは、全く狼になってしまうのです。前編で紹介しました、狼少女カマラの一生が、そのことをよく物語っています。

人間以外の動物は、生まれるとすぐ“ひとり立ち”します。鶏など、生まれ出るや、一人前の顔をして走り回り、餌をついばんだりします。

それに比べると、人間の赤ちゃんはひどく無能力です。母親の乳房を吸うこと以外、何の能力もない、と言っても言いすぎではないでしょう。

だから、人間は母親の胎内にいる期間こそ長いですが、生まれ出るのは、他の動物に比べて“数年も早すぎる”と言う学者があるほどです。なるほど、鶏を見たら、ひよこなど、人間では十歳以上の子供に当たりましょう。

しかし、人間は、“早く”生まれすぎたために、万物の霊長になりえたのだ、とその学者は言います。つまり、無能力の状態で生まれたために、“育て方”によって、狼になる可能性もあれば、霊長になる可能性もあるのだ、というのです。

昔から「三つ子の魂、百まで」と言われており、現代の脳生理学は、それを裏書きするように、「人間的な思考をつかさどっている脳は、生後三年間に、最も目ざましい成長を遂げる。三歳児の脳は、成人の脳の六十パーセントにまで成熟している。」と述べています。

もし、この三年間が母親の胎内で過ごされたなら、人間の子供は、能力的に、ほとんど個人差をもたなかつたろうと考えられます。そうではなくて、人類は、この三年間を与えられたために、大きな“可能性”をもつに至った、というわけです。

このことは、同時に、人類は大変な責任を神から与えられた、ことを意味します。より良くすることもできる代わりに、悪くすることもできるのですから。

人類は、胎内で育てるべき三年間を、神に許されて、自らの手で、自らの好むように教育する責任をもったのです。子供が、他の動物のように、ひとり立ちできるまで母親の胎内で育てられたら、今ほどには人類は“教育の責任”がなかったに違いありません。

ともかく、人間の赤ちゃんは、その育て方によって、最もすばらしい

動物にもなれる代わりに、動物以下の醜い存在にもなれるのです。私たちは、神から許された“子供を教育する責任”の重大性を認識して、その責任を果たすことに努めなければなりません。

人間の最も成長の著しいのは、生後の三年間でしょう。でも、この三年間は、それぞれの母親の責任で、母親以外の人は、これをどうすることもできません。

その三年間に次ぐ重要な時期は、小学校に入学するまでの“幼稚園期”です。私は、母親の養育を除いたら、人間の一生において、真に“教育”の名に価する教育のできる場所は、ただ“幼稚園”だけだ、と思っています。